

行政自治会だより

第23号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 熊木 津佐雄

古河市消防団第11分団が全国大会で準優勝！

「消防団の甲子園」と呼ばれる第26回全国消防操法大会が平成30年10月19日（金）富山県広域消防防災センターにて開催され、各都道府県を代表する48隊がポンプ車の部と小型ポンプの部で技術を競いました。

第11分団は23隊が出場したポンプ車の部に出場。選手はもとより第11分団一丸となって連日訓練に励んだ結果、見事準優勝を勝ち取りました。

（第9地区地区長 長瀨忍）

※第11分団構成行政区：東牛谷行政区、西牛谷行政区、八幡町行政区、みどり野行政区、東牛谷南町行政区



準優勝を果し、その名を全国に轟かせた第11分団の皆さん大変お疲れ様でした！



ポンプ車操法開始！



ホース結合



放水開始！



古河市応援団の皆さん

全国から集まったライバルたちと堂々と渡り合い、見事なまでの素晴らしいポンプ車操法を披露し観衆を魅了しました

※『行政自治会だより』は古河市公式ホームページからもご覧いただけます。

災害義援金を贈呈しました

古河市行政自治会は、「平成30年7月豪雨」及び「平成30年北海道胆振東部地震」により被害を受けた方々に、少しでも手助けになればと自治会・行政区を通じ災害義援金を募集したところ、義援金の総額が6,237,720円となりました。

お寄せいただいた義援金は日本赤十字茨城県支部古河市地区を經由して全額が被災された方々へ届けられます。皆様の温かいお気持ちに心より感謝するとともに、ご協力に御礼申し上げます。



役員から日赤県支部古河市地区長の針谷市長へ災害義援金を贈呈しました

第9回行政自治会親善バレーボール大会開催される

8月19日（日）、市内4か所の各会場で熱戦が繰り広げられた第9回古河市行政自治会親善バレーボール大会（男子の部、女子の部、男女混合、ソフトバレー）が開催され、精鋭80チームが参加し、どのコートも元気いっぱいのプレーが見られました。

（広報委員 蜂須誠司）



各会場で熱戦が繰り広げられました

大会結果

部 門	ブロック	優秀賞
9人制 男子の部	A	上大野行政区
	B	稲宮行政区
9人制 女子の部	A	中田町自治会
	B	女沼行政区
	C	上大野行政区
9人制 男女混合の部		中田町自治会
4人制 フリーの部 (ソフトバレーボール)	A	けやき平自治会
	B	八幡町行政区B
	C	諸川上町・中央町行政区
	D	諸川東松原・西松原行政区C
	E	仁連御辺行政区A
	F	北新町行政区
4人制 シルバーの部 (ソフトバレーボール)	A	上大野行政区

功労感謝の会が各地で開催されました



瑞香紫乃先生による日本舞踊に見入りました

9月から11月にかけて市内各地で功労感謝の会が開催されました。第17地区では、平成30年9月30日（日）に大和田小学校体育館にて盛大に開催しました。

市長をはじめ来賓の方々のご祝辞をいただいた後、瑞香紫乃先生と一門の方々のご日本舞踊やビンゴ大会等、楽しみながら和気あいあいと一日を過ごすことが出来ました。ご参加いただいた皆様が喜んでくださり、役員一同大変嬉しく思うとともに、また来年も開催できる事を願っております。

（第17地区地区長 齋藤彰）

第三地区珊瑚の会納涼祭



たくさんの方々にご協力をいただいた準備の様子です

第9回目を迎えました、珊瑚の会納涼祭を紹介させていただきます。8月25日（土）、26日（日）午後6時から8時まで古河第三小学校校庭で行われ、開会前には古河第三中学校吹奏楽部の演奏会も開催しました。6時30分から盆踊りが始まり、他にもフラダンスや模擬店の出店など多くの団体が関わり大変盛況でした。

この納涼祭は、地元の方々や地域の学校の皆様、たくさんのご協力により成り立っています。こうした交流からまた新たな交流が生まれ、地域の創生が生まれます。最近では、高校と中学のサッカー部のコラボ、高校の野球部と野球少年団のコラボなど様々な形で交流が活発になってきています。今後も納涼祭だけでなく様々な立場の方が参加できる交流の場をつくり、地域の活性化を進めて参りたいと思っております。

（広報委員 鶴見尚司）

駒羽根行政区納涼盆踊り大会

駒羽根行政区では、毎年8月15日に集落センター広場で納涼盆踊り大会を実施しています。

今年は好天にも恵まれ、午後6時の花火を合図に開会し、櫓を二重に囲んで踊り、大人も子供も楽しみました。

模擬店は「金魚すくい」「ヨーヨー釣り」及び無料配布の「かき氷」「ポップコーン」が出店され、大勢の子供たちで賑わいました。休憩時間には、区民の皆様から奉納された61発の花火が夜空を彩り、最後にお楽しみ抽選会で納涼盆踊り大会を締めくくり、今年も賑やかに開催されました。

（広報委員 白石芳巳）



今年も大勢の人で賑わいました

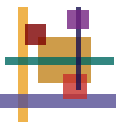
ふれあいいきいきサロン・にこにこクラブ



皆さん思い思いに楽しい時間を過ごしています

第15地区諸川西部行政区（那須和弥区長、区員629世帯）では、地元公民館において毎月第1土曜日に「ふれあいいきいきサロン」、第3日曜日に「にこにこクラブ」と称する月2回の親睦会を開催しています。午前10時から午後3時迄、参加は自由で、それぞれ自分の好きな分野のカラオケ・将棋・麻雀・踊り等を楽しんでいます。飲み物・お菓子などは各自で持ち寄り、ゆったりと一日、親睦を深めながら過ごすことができると大好評で、男女比約4：6の割合で毎回40～50名の方が参加しています。

（広報委員 北山正）



河口信任（ノブタダと呼ぶが通称シンニン）は、元文元年（1736年）5月9日、河口房重の長男として唐津城下に生まれました。幼少期は藩校盈科堂で、論語四書五経を学びました。才気煥発の信任は、幼名辰之助、忠左衛門、房甚、22歳以降道五、子遠、閑春と称し、宏斎と号しました。晩年の古河では、佳石という俳号をもちいました。

寛延元年（1748年）、13歳で御目見えし、15歳の時に母が病没、22歳で父房重も失いました。

宝暦3年（1753年）、18歳で初めて見習い医師となり、同9年（1759年）3月1日、外科稽古のために藩の許可をえて、唐津を発ち、長崎の蘭医、栗崎道意に入門しました。翌10年には、第2回目の長崎遊学を許され再度栗崎道意に入門して、10月に初級免許皆伝を受け、続いて宝暦12年（1762年）2月には、栗崎流外科奥儀免許皆伝をえて、翌年春まで学んでいます。

明和6年（1769年）11月、土井利里は、京都所司代に栄転上洛し、信任は藩主に従って12月に京都に上洛しています。翌7年、京都で荻野元凱に入門しました。同4月25日、信任は所司代土井利里の許可を受け、京都西郊に首一級、無首の屍二体を得て、元凱とその門人8名立会の上、自ら刀を執って解剖を行い、切り出した臓器を一つ一つオランダ解剖書に照合して蘭書の正しさを知りました。明和9年3月、信任は京都で本邦2番目の『解屍編』を刊行しました。杉田玄白の『解体新書』の2年前のことでした。時に37歳。



河口信任著『解屍編』（個人蔵、古河歴史博物館寄託）

在京8年、42歳で古河に帰った信任は以後、門人たちに栗崎流外科の奥儀を伝授しています。

天明3年（1783年）3月に妻幸を亡くしてからは、孫の信順やその友人であった鷹見泉石らに蘭学を教え、古河に蘭学の花を開かせました。

文化8年（1811年）2月、船渡町から出火して、河口家も一部類焼し、貴重品を失いました。その時に解剖原書も消失したものとわれて、信任は落胆のあまり屋敷地の移転願を藩に提出しましたが、許可されませんでした。心労が重なり、同4月26日、76歳で永眠し、日蓮宗の寺である古河市の長久山妙光院本成寺に葬られました。



河口信任が眠る本成寺（古河市横山町三丁目）

この本成寺には、信任をはじめ、5代古河城主土井利益を生み、22歳の若さで没した法清院殿の墓（市指定史跡）もあります。この法清院殿の墓は大家の威容をしめす立派なものです。

また、「古河志」（市指定文化財）の著者である小出重固の墓（市指定史跡）や明治3年に取り壊し直前の古河城を撮影し、全国各地に華道を普及した池坊総華督の武藤松庵の墓と頌徳碑があります。

さらに、法華経信者の守護神とされる元禄7年（1694年）の墨書銘がある木造三十番神像30軀（市指定文化財）が、安置されています。墓地の西側には、遺跡としての本成寺貝塚もあります。

近年、名刹本成寺は、本堂境内の大改修工事が行われ、銅板葺の本堂大屋根が、黄金色に輝き大伽藍の威容を誇っています。

（北新町自治会 田嶋幸男）

編集後記

今号から地区紹介に代わり地域の話題紹介が新しくシリーズとしてスタートしました。

各自治会・行政区で行われている行事等を紹介して頂き、地域のコミュニティ活動の参考として頂きたいと思っております。また、各自治会・行政区の自慢出来る行事等の記事を待っております。各広報委員までご連絡下さい。（広報委員長 梅津信男）

行政自治会広報委員会

委員長	梅津 信男		
委員	鶴見 尚司	蜂須 誠司	長濱 弘道
	尾沼 卓	白石 芳巳	若林 俊彰
	北山 正	西村 榊	